

第8号
(12月)
2013年12月1日

七里ヶ丘子ども若者支援研究所 それが社会参加だ



鎌倉市七里ヶ浜東2-31-12
09072124055
qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
発行編集責任者 滝田衛

京都嵯峨野三千院

2013年12月1日 神奈川新聞
12月1日 追う 地域発 語る 問う 論説 特報



子ども若者を豊かに育てる社会へ 現実が感性をはぐくむ

是非？ 米軍基地の銃体験の意味とは何か…

10月17日(木)神奈川新聞の取材を受けた(左写真)。僕は1951年敗戦(終戦)記念日8月15日横須賀生まれ。僕はさいか屋店先でアコーディオンを弾き募金を求める傷痍軍人を見、ベトナム戦争激化で米兵達とデモ隊で群れる街を感じ、武装しシェパード犬を連れた米兵が警備する基地の近所で遊んでいた。小学生頃ベースを見学し軍艦に乗り機関銃に触り、コーラも初体験した。浪人時代？ベトナムへ行く20歳ぐらいの米兵にギターを習った。しかし成人を前後して横須賀等で反戦集会デモ、原爆爆心地復元ボランティアで広島に5年通った。横須賀でリアル社会に育てられた僕は、現実社会が子ども・若者を育てると確信する。僕のテーマに即して言えば「不登校やひきこもりの現実を隠してはいけない」と。いじめ・虐待・差別(女性・障がい者・民族等)、そしてフクシマもだ。平和憲法に守られているようだが、経済優先と“みんな”意識の中で政治行政やマスコミは“見たくないもの”にふたをする。あるべき姿、平和や人権等を訴える側面と、リアルな現実社会を遮断する側面がある。そんな視点からの発言と理解いただきたい。取材記者織田匠氏は9月8日「ひきこもりからの生きなおし」講演会を最後まで取材し記事にした人である。敬愛する記者の一人だ。

《メールetc》 若者が動き出す時、それは自分への信頼？ 他者との…

就職面接会(右下写真 横浜そごう9階)を前に、Nさん「おはようございます。本日は2社受ける予定です」とメール。母は「Nがここまで挑戦しようと決心出来たのもカウンセリングがあったからだと思います。行動出来た事が少しでも自信につながってくれたら嬉しいです」と。会場での彼の様子をメールすると「本人が少しずつ家から出て動きだそうとしているので焦らずに見守っていきます」と母。そして「私も昨日、簿記検定の二級を受験してきました。緊張していたのと勉強不足で思うように解けませんでした。何かに挑戦することは勇気がいるものだと思います」と。面接会後の方向についてメールすると、Nさん「わかりました。職業訓練校の手続きは、きょう」と返信してきました。後日聞くと、面接会後すぐネットで調べ、ハローワークへ行って相談し応募用紙をもらい、ちょうど記入してた時だったそうです。即日Nさん「今、手続き終わりました。面接日は28日の15時です」と送信。その日、応募用紙を横浜まで出し面接日が決定。後日のカウンセリングでその時のエピソードを聞きました。返信用の封筒忘れを担当者から指摘、「コンビニで買うといいよ」とアドバイス受けた。早速購入して書類を提出したそうです。この行動を母親にメールすると「自分から少しずつ動き出して、少し安心しました。まだまだ色々あるかと思いますが、めげずに頑張ってください」と。

コラム風 ある青年から「滝田さん、文章下手ですね」と笑顔の苦言、その通りと答えた。小さい頃から文章を書くのが苦手、字が汚いからだ。母親が見かねて小学1年時に1か月練習させ、諦めた。僕は人生の初めに良いことを学んだ、諦めてもらう喜びを。次は中学3年、苦手な社会科の先生がレポートを褒めてくれた。「字は汚いけど文章がうまい」と教室に張り出した。僕は「字が汚い」を気にせず「文章がうまい」に感激、実におめでとう奴だ。以後は分析的な感想文を書き、作文の苦手感が消えた。そして極めつけ、教員になっての生徒と保護者の評価だ。「黒板の字が読みにくい」「板書が整理されていてよい」「学級通信の文章が難解だ」「学級の様子がよくわかる」等等賛否両論だ。そう、100人いたら100の風が吹く、風に任せるしかないと考えた。僕は風を読むことが出来るようになったと確信、またまたオメデタイ。上手く素敵な文章は村上春樹さんにお任せだ(笑)。下手な文章で事実を伝え感じていることを発信する、それが僕が吹く風だ？ 答えになったか分からないが、ある青年さん今後もよろしく。



応援団会議のすごさ！ 「レベル高い会議ですよ」と島根三枝子さん



11月28日(木)応援団会議より 右より 涌井夫妻、川辺、高橋、山本、新舩、高島さん
 撮影者:滝田

11月28日は8人の参加。高橋さん、腰痛も良好で今後のお箏演奏をお約束頂きました。高島さんはお子さんの友人と親御さんを思案、友人の成長を願う優しい話題でした。全体では2月講演会を話しました。そして10月応援団会議の報告です。初参加の土屋さん「小6から不登校の息子、家に居ます。のんきな私はそのままを認め、でも不安定。今は落ち着いています。親の無力さに社会の力を願ってます」と。涌井(母)さんは「子どもの側にずっと立てずやっとうんざりが言え息子の苦しさを理解。絶望感が消え優しさを交わせる」と。「気づくところがすごい」と島根さんがコメント。涌井(父)さんが「市民釣り大会と一緒に参加し息子はマナー賞獲得」と。一同「素敵な息子さん！」と。そして当事者の新舩さんが“交流の場”を提起し盛り上がる論議へ。以下に新舩さんの思い、お読みください。

「社会的ひきこもりについて」 新舩秀浩 32才 某通信制大学在籍中

僕は今約10年間ひきこもり生活をおくり、社会と関わり働くことがなぜ困難なのか、それは社会に原因があるのか、引きこもってる側に原因があるのかと考えを巡らせていた。最近PCを通して多くの働いている人々と関わってみた。ある人は働いてはいるが以前精神科に通っていた、生きていてごめんなさいと悩む人、さらに家庭環境から自己肯定感が持てない人がいた。PCを通してではあるが、ひきこもりと呼ばれる人々と心の持ちようは変わらないのではないかと思ったし、ひきこもり生活と紙一重ではないかと感じた。僕が「精神病でひきこもっています」と正直に言うと、「へー」とか「あ、私の妹もそうだから」という反応だった。もちろん怠けてると思う人もいた。これらの現状をみて、案外働いている人々にもひきこもりという社会問題を理解できるのではと思った。互いの価値観があり簡単なことではないと理解しているつもりだ。そこから、働いている人々とひきこもりの当事者の直接交流が実現できないものか。互いに楽しい交流を通して、社会的ひきこもりと呼ばれる人々と働いている人々との緩く穏やかな分かち合いができるのではないか。この行動から徐々に社会的ひきこもりという問題の相互理解が進み、僕を含めた社会的ひきこもりの人々が生きやすい社会が実現するのではと思う。しかし10年前は人並みに、いや人並み以上に努力ができた僕は、ひきこもりという言葉を受け入れられなかった。だから正直こういう問題は他人に任せ、僕だけ社会参加でき人並み以上の事ができるのではないかという考えも同時に存在する。このような僕が社会的ひきこもり問題と対峙しているものか、悩みどころである。

さまざまな相談から見えて来るものは、生きてる生きてく (下写真 しずむ夕日と江の島)

○10月7日にご相談させていただいたSの母です。その後も職員の方とミーティングを重ねながら取り組んでいます。少しずつ成長は感じてますが大きく変わる事は難しく、家の環境を整えましたが刺激も多くバラバラな年代の兄弟をルールで統一するのも出来ず思うようにはいかないです。私は仕事を減らして兄弟だけにしないよう、そして息子と向き合おうと思っておりますがどうなるか不安でたまりません。学校へは通っていますが、来年度は進路を決めて動く時期になり、本人が不安定になりそうで心配です。行き場所がなくなってしまった時は、またご相談にのっていただけると嬉しいです。息子に合った場所でストレスが少ない生活が送れるといいなと思っております。



○息子は朝までゲーム、私の出かける前に降りて来て朝ごはんを食べる時があります。毎日平和です。先日は帰宅したらゲームを買いに行きたいので車で行ってと言われてきましたが、疲れていたのを断りました。暗い中を自分で店まで行って来ました。今までなら私も止めたところ、本人に任せました。週末の買い物と一緒に出かけます。先週は靴を今週はズボンを2本買いました。二日続けて出かせないから1セットあればと言っていたのに、少し変わりました。先週は違うゲームソフトを買い自分で取り替えに行き、ハッキリ言えたと報告していました。歯が痛い、目が腫れ、メガネで耳がこすれ、耳鳴り、皮膚の状態が悪化、そのままです。病院に行くように言う争いに、これも黙って見守るべきでしょうか？ まあ言っても聞かないので、こちらが見なければいいのですが、本人が不調を訴えてきます。

第2回講演会 いじめ問題 来春2月23日(日)

篠原宏明さん(NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事)

今夏8月25日(日)午後9時、NHKスペシャル「僕はなぜ止められなかったのか？」が放映された。2010年6月7日篠原真矢さん(14才中3年)は自宅で自死した。遺書を残し。父親の篠原宏明さんは、川崎市教委に訴え一緒に自死といじめの真相究明に取り組んだ。息子さんの友人たちとの交流を続けながら…。その追跡調査ドキュメントがNHKスペシャルだ。篠原さんはいじめと自死を問い、NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事として活動している。最近『学校事件・事故被害者全国弁護団』設立総会に出席した。こども若者応援団会議はいじめへの取り組みの講演会を2月に開催します。ご協力くださる方はご連絡を！

相談は右の日程でご連絡ください。時間は10時～16時でお願いします。訪問は日程調整します、往復の時間も必要です、ご相談ください(土曜日訪問は受け付けたいと思います)。応援団会議は横須賀市市民活動センター午後2時～4時です。ご参加を

12月の開所日程			
2日(月)	相談	予約済み	16日(月) 相談
5日(木)	相談		19日(木) AM 相談
9日(月)	相談		PM 応援団会議
12日(木)	相談		良いお年をお迎えください

